



R8 西粟倉小学校だより

No. 3 令和8年 6月10日 (水)

筑波大学付属小学校 加藤先生の公開授業

日本一、教育研究で有名な小学校が、筑波大学附属小学校です。

その学校にご勤務されている、道徳のスペシャリスト、加藤宣行先生が、5月29日に本校にお越しになり、6年生に授業をしてくださいました。この授業は、公開授業としておりましたので、当日は、村外からの先生方もご参加くださいました。加藤先生の授業を拝見し、そのスキルを我々教員が学び、日々の授業実践に活かすことで、子どもが楽しんで授業を受けるようになればと考えてこの研究会を計画をしました。

子どもたちは、超有名な先生が、どんな授業をされるのか興味津々でした。6年生の教室に入られた加藤先生は、雑談を通して、子どもたちの心をほぐし、学ぶ意欲を持たせていました。その後、授業に入ったときには、とても初対面の先生との授業とは思えないぐらい、子どもたちは楽しそうに学習を進めていました。当日は、「手品師」という教材を使って、誠実さとは何かについて考えたのですが、子どもたちはどんどん思考を深め、最後に、子ども側から出たまとめの意見には、加藤先生自身も感心されていました。「実に、おもしろい子どもたちでした。あんな意見が出る子どもたちを育てられている学校が、素晴らしいですね」と、加藤先生からお褒めの言葉をいただきました。

この授業を参観された先生方からは、とても学びになったと、多くの感想が寄せられました。授業後の研究会でも、加藤先生の授業づくりの仕方や、教育に対する思いを伺い、感銘を覚えました。

その中で、特に印象的だったのが、「何かを決断する時、これだとすぐさま決めることもあるだろうが、いろいろな人の立場になって考えたり、様々な価値について考えたりしながら、ああでもない、こうでもない、と、迷い、時間をかけて、自分がこれでいこうと判断することもあっていい」ということでした。判断のスピードはその都度、求められるものが違うでしょうが、西粟倉の子には、後者のように、いろいろな事柄を考慮して決断できる人になってほしいと思います。

今回の加藤先生からの学びを是非、本校の教育、いや、西粟倉の教育に活かしていきたいと思います。



海事研修に行ってきました

5月20日～21日にかけて、5年生は渋川海水浴場へ海事研修に行ってきました。当日、心配された天気でしたが、子どもたちが現地で活動するときは、すべて、雨が上がり、結果、すべての行程を無事に行うことができました。これも、子どもたちの持っている力なのでしょうね。カッター漕ぎや地引網など、いろいろな体験をする中で、他校の児童との交流が、一番、心に残ったという人がいました。確かに、日々、7人で生活している5年生にとって、100人近くいる学校との交流などはあまり体験したことがなかったでしょう。多くの仲間の中で、最初は戸惑うことがあっても、最終的には、良い思い出になったということだったので、多くの仲間がいることの良さを感じ取ったことでしょう。

学校内だけではできない体験の良さが、校外学習にはあります。この海事研修を通して、5年生はさらに成長したことでしょう。



児童会執行部が動き出しました

児童会執行部では、今の学校内の問題について考えました。今回、問題に取り上げたのは、「挨拶」と「トイレのスリッパそろえ」でした。昨年よりも挨拶の声が小さくなったこと、トイレのスリッパがあまりにも雑なことを問題視したようです。

その改善のために、児童会執行部は、朝の児童朝礼で、トイレのスリッパの散らかり具合を撮影した写真を全校に提示し、問題提起をしてくれました。そして、休み時間には、スリッパのそろい具合を点検してくれています。

また、朝は、西粟倉小のマスコットキャラクターにふんして校舎内をめぐり、いろいろな学年の子や先生方に、ハイタッチ挨拶をしてくれています。

こうした取り組みを自ら行おうとする児童が育ってきていることを喜びに感じています。課題を自ら見つけ、どうしたら解決できるかを考え、計画し実行する。そして、振り返りをして、結果を分析し、さらなる改善を加える。こうしたサイクルを自分たちで回すことができれば、自治的な活動や集団が育ってきます。

昨年に引き続き、今年の執行部にも期待が持てます。今、子どもたちがやろうとしていることを、しっかり応援していきたいと思います。

